7　出穂特性と草地の利用時期について　（畜試外山分場）

(1)　背景とねらい

イネ科牧草は、春期に出穂現象をみるが、放牧地等にあっては草地の利用効率からみても出穂は望ましくない。反面早春に放牧等で一時草地を利用した後でも、出穂させ、採草利用したい場合もある。

しかし、これまでのところ草地の利用時期と出穂の関係が必ずしも明かにされていないと思われるので、春期の利用時期とその後の出穂状況について検討したので参考に供する。

(2)　技術の内容

1）　放牧地等における出穂抑制のための利用時期

リードカナリーグラスは、出穂時期の１０日前頃（５月３０日）、オーチャードグラスは出穂期頃（６月１０日）、チモシーは出穂始期頃（６月２０日）を重点利用することにより、出穂は抑制される。

2）　出穂本数に影響しない早春の利用時期

リードカナリーは出穂始期の１５日前（５月２５日）、オーチャードグラスは出穂始期の１５日前（５月２０日）、チモシーは出穂始期２０日前まで利用し、その後は草地を休ませる。

(3)　指導上の留意点

1）　当地での牧草の生育ステージ（無刈取）

草　　種	出穂始期	出穂期	穂揃期	開花始期
リードカナリーグラス	６・１０　→	→　６・２０	→　６・２５	→　６・３０
オーチャードグラス	６・５　→	→　６・１０	→　６・１５	→　６・２５
チモシー	６・２０　→	→　７・５	→　７・１０	→　７・１０
ペレニアルライグラス	６・５　→	→　６・２０	→　６・２５	→　６・２５

他場所でも牧草の生育ステージを合わせ検討することにより、本成績を利用できるものと思われる。

(4)　関連試験課題名

高冷傾斜地における不耕起草地の永年維持技術（岩手畜試成績概要書　昭和５２　５３　５４年度）

（５）　主要成果の具体的数字

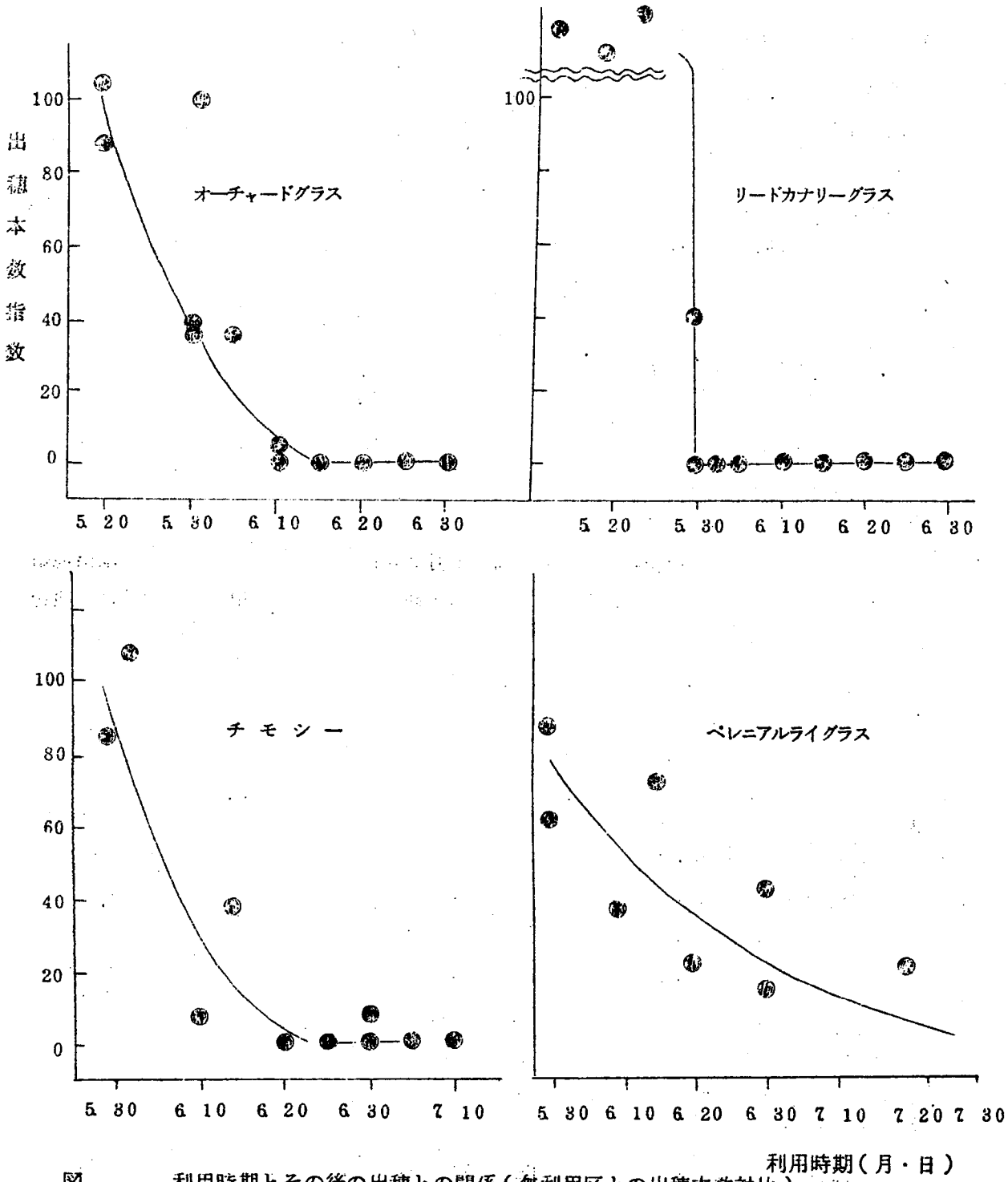

図　　利用時期とその後の出穂との関係（無利用区との出穂本数対比）